

『クワーク神父のハート』

協力司祭 上村 勉

私は、クワーク神父が城北橋教会の主任司祭の時代に、三年間日曜日に、使徒職活動として青年たちの指導のために、神言神学院から通いました。

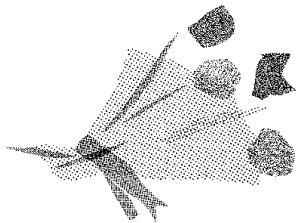
それから司祭として三四年以上の経験を積んだ私が、現在ここで協力司祭として働いていることは不思議な神の摂理というしかありません。

クワーク神父の宣教活動、司牧活動から私が学んだことは、人間関係作りが消極的な尾張名古屋の気質ではなく、率直で積極的で精一杯な、しかも愛に満ちた心での人との関わり作りのやり方でした。雷おやじ、ライオン神父と言われながら、司教様から預かって受け持っているすべての信者のことをいつも心配し、特にミサに見えなくなつた信者や、弱っている、迷っている信者の一人ひとりのこと

を大切に思い心配して家庭や会社の寮を訪問し、励まし元気づけていました。良き牧者キリストの姿そのものを生きていました。

当時は、シスターやカテキスタや神学生の協力もあつて、チームで宣教司牧活動が活発に展開されていきました。チームでの宣教・司牧活動は現代ではもっと必要とされています。

クワーク神父が現代の教会に求めることは、現在働いている司祭とシスターと育つた信徒、また育てなければならぬ信徒たちとチームを組んで、宣教・司牧活動についてたびたび話し合い、具体的な計画を作つて積極的に実践することでありませぬ。



『心からの感謝と愛を込めて』

マリア・クララ 朝見 鈴子

主の大きな恵みと愛であつたと深く感謝いたします。

六月一九日クワーク神父様がミサに出席され、説教をして下さいました。オーストラリアに帰国されますので、お別れだと思ひましたら急に悲しくなり、ジンとして涙がでました。イエス様が与えられた、福音書を分析しながら神様の愛を信じるようにと、お話しされました。クワーク神父様の内に神様が直接働いて下さつていたと思います。

本物の命の言葉を力強く語られました。人々の心の記憶に残る素晴らしい説教でした。霊魂がふるえました。私は神様の愛を感じて泣きました。イエス様が特に愛されたクワーク神父様を私達の指導者として下さいましたこと、心より深く感謝致しました。

神父様が人々に示された大きな愛、神様の教えを具体的にを見せて下さいましたこと、ご聖体によつて神様と結ばれたことを、うれしく思いました。クワーク神父様はいつも模範的な行いをされ、一日一日を大切に神様を愛し崇め、その御心を信じるようにと、いつも教えて下さいました。

クワーク神父様はいつも種々な困難に悩む人々のために犠牲をして下さり、すべての人々が救われることを願つて天の父にご自分をささげて下さいました。「主に完全に従いながら神様と人との出会い、人と人との出会いを大切にしない」といつておられました。信仰のある生活は心がやすらぎ、神様に愛され、神様を、そして人々を愛したとき、神の御心にふれることができます。いつも主に感謝し信じ愛をこめてお祈りするようにとご指導下さいましたことを守り、これから出会う人々に述べ伝えて行きます。熱心にお祈りして下さいます尊い姿を思い出しながら、私もいつも心からの愛をこめて神様